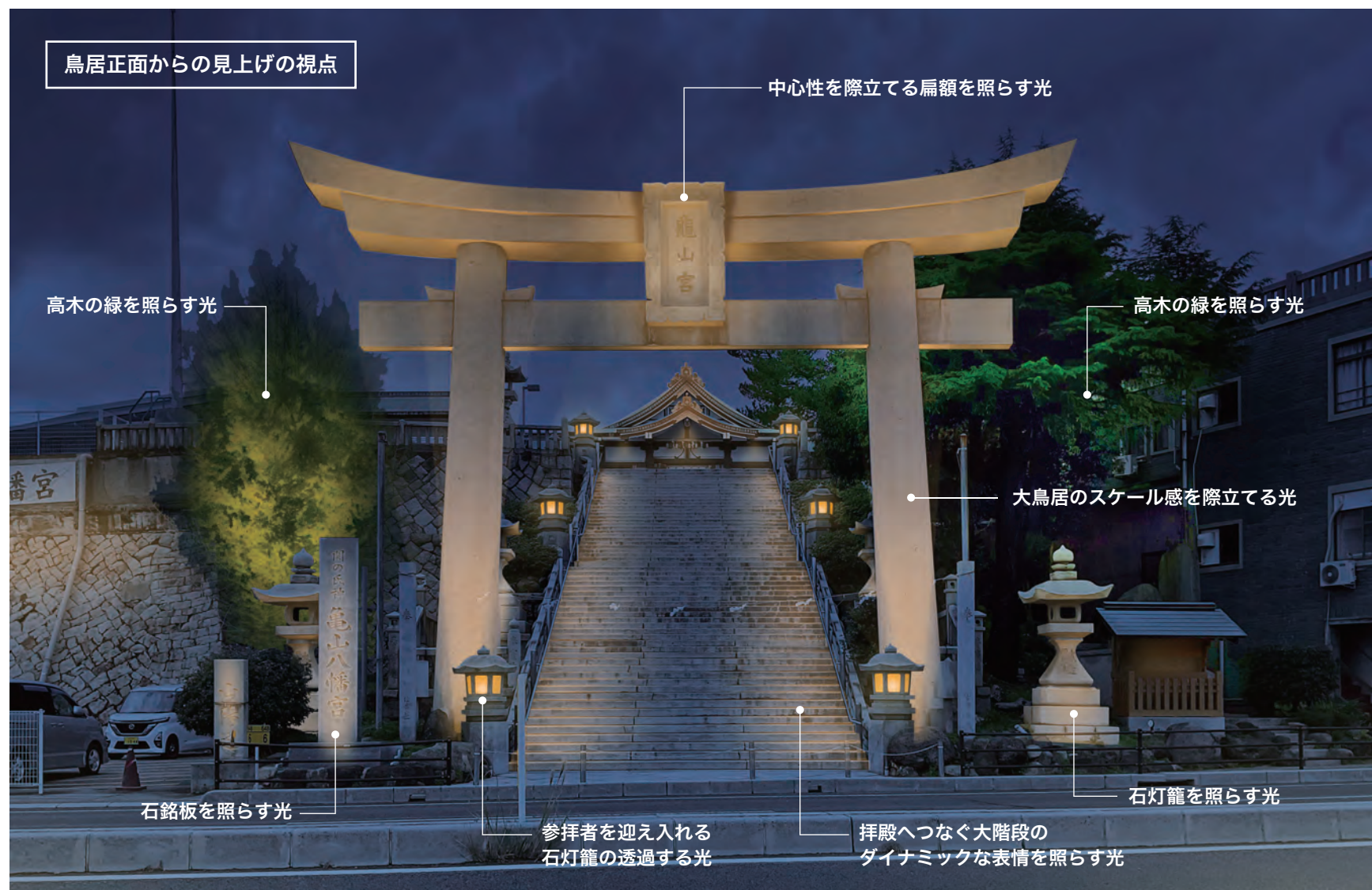


亀山八幡宮 大鳥居のライトアップ照明イメージ【通常シーン】



拝殿のライトアップ照明イメージ



亀山八幡宮の照明計画

「関の氏神さま」「亀山さま」と親しまれている亀山八幡宮。日本一と称される大鳥居と拝殿をつなぐ大階段のダイナミックな表情を活かして、鳥居正面からの見上げの視点を重視した照明デザインを行います。

特徴的な景観要素である大鳥居の形状や、中央に構える畳3畳分の大きな扁額、対称的に配置された石灯籠を引き立てるライトアップを軸に、周囲の石積擁壁や高木の表情を取り込むことで亀山八幡宮の視認性を高め、来訪者に分かりやすい光環境を創出します。ライトアップ照明演出は、鳥居の柱や石灯籠の内蔵照明にフルカラーLED照明を採用。通常時のライトアップは電球色の光を基本とし、祭事や市民啓発などに限定した特別なシーンを用意することで、時代のニーズに合わせたドラマチックな光景を創出します

亀山八幡宮の歴史や特徴



御本殿・境内
伊勢神宮式年遷宮記念亀山八幡宮御鎮座1155年記念として平成の大造営を実施



大鳥居
御影石製 高さ 12.7m 幅 15.1m 柱直径 1.2m 日本一と称されている



扁額
縦 3.0m・横 1.5m (畳3畳分程の大きさ) 験担ぎの鳥居として有名



山陽道碑
「長門国誌」には「これ山陽道第一番塚なり」とあり、九州を控え重要な役割をしていた

亀山八幡宮全体のライトアップ照明イメージ

